



藤堂高虎公の足跡②
県指定史跡
津城跡（その2）
（丸之内）

電車…近鉄津新町駅から
徒歩15分

車…伊勢自動車道津 I C
から車で10分

高虎による津城跡の改修は、入府から3年を経過した慶長16（1611）年に始まる。高虎の城郭設計者（土木技術者）としての能力が高く評価されて全国の城郭の改修に携わったことにより、自らの居城の改修は後回しになった格好である。

現在、高虎改修以前の津城の姿の分かる資料はほとんどない。わずかに、江戸中期に描かれたとされる織田信包が築いた安濃津城の絵図を見ると、その形は高虎修築以降の城とは大きく異なる構造であった。

高虎による改修では、その時に天守閣があったか否かは不明であるが、天守台はそのままに、本丸については大きく東側と北側に拡張したと考えられる。現在の城跡でこうした改修前の姿を垣間見ることができるのが本丸南側の石垣の継ぎ目である。この継ぎ目から東側に約30m拡張することで、本丸は大きくその規模を拡大させ、一辺が100mを超えるものとなった。

また、本丸北側石垣の両端に丑寅^{うしとら}三重櫓と戌亥^{やぐら いぬ い}三重櫓^{くるわ}を新設し、東西の堀の中に東之丸と西之丸の郭を設け、西之丸出口に伊賀二重櫓、東之丸出口に太鼓櫓、本丸東南隅には月見二重櫓をそれぞれ設けて、城郭施設の整備を図った。

現在、往時の建物はすべて取り払われて残っていないが、近年発見された本丸を囲む建物（櫓や門）の構造図面を見ると、高虎の築いた城郭の集大成としての姿が浮かんでくるようである。

（「広報津」平成20年6月1日号）



本丸南石垣に残る城域拡張の痕跡